

「確かな学力の育成」を目指して

子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいくためには、確かな学力が必要です。そこで県南教育事務所では、学力向上の3つのポイントを設定し取り組んでいます。管内小・中学校研究主任研修会もこの3つのポイントを中心に実施しました。

- ①各種学力調査の分析をふまえた授業改善を図る。
- ②教員一人一公開授業を目指す。
- ③授業と連動した計画的な家庭学習を推進する。



3つの選択研修

講義A 研究主任の役割と研究の進め方

- ◆研究主任の主な役割は、「学校の研究計画の立案・実施」「連絡調整」「指導・助言」である。
- ◆常に「子どものため」という視点で研究を進め、真のリーダーシップを発揮することが重要である。
- ◆研究のポイントは3つ。①日々の教育活動との一体化 ②協働 ③教師一人一人の実践力の向上

講義B 学校公開に向けた取組について

- ◆カレンダーを作成し、公開までの内容と日程、役割を明確にしておくことよい。
- ◆目指す研究紀要を見つけること、そして紀要で作成する内容は目次から見えてくる。
- ◆「研究の芯」は、シンプルに。そして、教職員全員で共有しておくことが大切。
(奥州市立佐倉河小学校 佐々木美穂先生より)
- ◆公開は、労力も要するが、得るものも大きい。

講義C 特別に支援を要する児童生徒の学習指導

- ◆学習指導の支援は2つ。①環境調整 ②働きかけ
- ◆障がいの種類によって、支援の仕方が一つひとつ違う。板書の書き方、色の使い方、字の大きさ、声の大きさ、説明の仕方など、子どものニーズに合わせた支援が重要である。

家庭学習と連動した学力向上の在り方

2つの学校より、実践発表をいただきました。

《奥州市立若柳小学校 遠野陽子先生》

- ★年間計画を立てることで、見通しをもつと共に、教職員で共通理解し統一した指導ができる。
- ★「家庭学習体験日」「家庭学習強化週間とアンケートの実施」「家庭学習ノートの交流」を通して、子どもたちが家庭学習のよさや頑張りを実感しながら取組めるように配慮している。
- ★授業と連動した家庭学習を意識することで、授業を円滑に進め、学習内容の定着を図ることができる。

《金ケ崎町立金ケ崎中学校 高橋美知留先生》

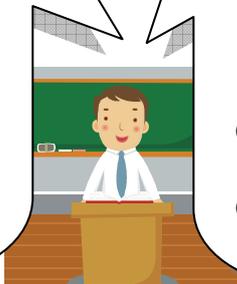
- ★教科の特性を生かした「学び合いの場」のある授業づくりをすることで、学力向上を目指す。
- ★基礎学力の向上のために、放課後ドリルの時間や家庭学習を活用する。授業と授業外の活動の内容の関連付けを図る。
- ★家庭学習の取組について、学年ごとに反省と今後の重点を検討し、改善を図りながら、よりよい内容にしていく。



学力向上の取組について

●新学習指導要領も

- 「生きる力」を育てます。
- 学力を向上させるためには、「外発的な動機付け」だけではなく「内発的な動機付け」が重要です。
- 若手県学習定着度状況調査等の結果を分析し、授業等で計画的に取り組むことが必要です。
- 子ども任せの自主学習ノートだけではなく、授業と連動した計画的な家庭学習を実施しましょう。



- 授業は付けたい力を明確にし、単位時間ではなく、単元で力を付けるように計画しましょう。
- 思考力・判断力・表現力等を育成するために、具体的な場面を想定したり、説明したり、文や式等に表したりすることを子ども自身にさせましょう。
- 条件を付けて書かせたり、条件不足や条件過多の問題を提示したりしてみましょう。
- 学びを振り返り、学習内容や学び方などを、子ども自身の言葉で表現できるようにしましょう。

